

東京都議会議員選挙 自民党歴史的な大敗！

今こそ憲法改悪絶対反対に向けた

強靱な組織体制を職場・地域から創り出そう！

7月2日投開票の東京都議会議員選挙では、これまで「安倍一強」と言われてきた自民党が57議席から23議席へと議席を大幅に減らし、歴史的な大敗を喫した。これに変わって小池都知事率いる「都民ファーストの会」が55議席を獲得し圧勝、都議会第1党へ大躍進し、選挙協力をした公明党と合わせると78議席となり過半数を上回る結果となり、共産党19議席、民進党5議席、日本維新の会1議席、生活者ネットワーク1議席、社民党・無所属0議席という結果を生み出した。そのうち、JR総連をはじめ東京・横浜・八王子地本が推薦した候補者9名中、1名の当選を勝ちとったものの8名が惜敗するという厳しい結果に終わった。日本の首都「東京」の勢力図が、一夜にして都民ファースト一色に塗り替えられた瞬間であった。

過去の都議選の歴史を辿っても、政権交代の流れをつくるなど国政に影響を与えてきた。今回の選挙結果も民意が圧倒的な力を示すことを証明し、自民党・安倍政権への批判として現れたことは言うまでもない。「共謀罪」の強行採決、また、「森友学園」への国有地払い下げや「加計学園」の獣医学部新設計画で、公平・公正であるべき行政判断が「首相の意向を忖度する」ことによって歪められ、首相と親しい者たちが優遇される政権に失望し、さらに現職の大臣・自民党議員の暴言・スキャンダルなど安倍政権は指弾されたのである。

私たちは都議選の選挙結果に一喜一憂してはならない。JR東労組の任務は、一切の戦争・テロに反対し、平和憲法を守り抜くことにある。しかし争点は、「築地市場移転問題」「五輪開催問題」「小池都政の中間評価」などであり、「都民ファーストの会」は憲法改悪反対を明確にしていないことに私たちは注目しなければならない。

一方で安倍首相は「憲法施行70年の節目にある本年中に、自民党が先頭に立って歴史的な一歩を踏み出す決意」を強調し、秋に召集される臨時国会で憲法審査会へ憲法9条に自衛隊を明文化することをはじめとした4項目を自民党案として提出する決意を示している。このような情勢を見たとき、私たちは国民投票を念頭に地域から労働組合、9条連、市民団体の皆さんと連帯を強化して、憲法9条改悪反対の運動をさらに推し進めようではないか！

JR東労組は結成30年大会でも確認した「抵抗とヒューマニズム」をこれからも堂々と掲げ、「えん罪・JR浦和電車区事件」を教訓としながら組合員との総対話や学習を通じて、圧倒的な組織の力と団結力をもって職場から平和・人権・民主主義を守り抜くためにたたかいを力強く前進させるものである！

2017年7月3日
東日本旅客鉄道労働組合
中央執行委員会